

## ピンイン表記の誤答に関する一考察

竹 中 佐英子

### 1. テーマ選定理由

現代中国語の正書法は、漢字である。中国大陸では、その画数を減らした「簡体字」が正書法となっている。漢字の多くは、意味を表す「偏」と読み方を表す「旁」から構成される「形声文字」であるが、旁はローマ字のように見てすぐに読み方がわかるとは限らない。周有光1995.p1によれば、「現代中国語で常用されている漢字約7,000個のうち、旁が忠実に読み方を表す漢字は39%に留まる」という。そこで中国政府は1958年、中国語の漢字音を表すローマ字表記法を制定した、これが「ピンイン」である。例えば、中国語で「私」を意味する語は“我”であり、ピンインでは“wǒ”と表記、「ウォー」のように読む。

筆者は、東洋大学経済学部国際経済学科（以下「国経」）の中国語教育において、各簡体字のピンインを正しく表記できるよう、力を入れて指導している。その理由は3つある。1つは、現在出版されている中国語の教科書や辞書が全て、中国語の漢字音をピンインで表記しており、これを習得しておかないと、教科書を音読することも、辞書を引くこともできないからである。2つ目の理由は、パソコンやスマートフォンで中国語を入力するには、簡体字のピンイン表記を知っておく必要があるからである。3つ目の理由は、筆者が履修者に中国語検定試験（以下「中検」）に合格して欲しいと考えており、ここには100点満点のうち20点分、単語のピンイン表記が出題されているからである（資料1）。中検に合格すると、履修者は熱心に授業に取り組む、中国語学習意欲が向上する、経済学部から検定料を補助される、就活で有利になる、といったメリットがあるので（竹中2017.p219）、筆者は履修者に中検受験を推奨している。

【資料1】 (6)~(10)の中国語の正しいピンイン表記を、それぞれ①~④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(2017年11月実施中検4級筆記より)

(6) 杂志    ① zházi    ② zázhi    ③ zázi    ④ zházhi

- (7) 电影 ① diànyīn ② tiànyīn ③ diànyǐng ④ tiànyǐng  
 (8) 咖啡 ① cāhēi ② cāfēi ③ kāhēi ④ kāfēi  
 (9) 小说 ① shāoshū ② xiǎoshuō ③ shǎoxù ④ xiǎoshōu  
 (10) 面条 ① miàntiáo ② mènqiáo ③ miànqiáo ④ mèntiáo

国経の中国語教育が成果を上げ、中検に合格するためには、履修者が各簡体字、各単語のピンイン表記を正しく表記できるようになることが重要である。しかし、各簡体字のピンイン表記を覚えていくのは一定の労力と時間を要することであり、特に1年生用中国語科目の学習では、ピンイン表記の暗記に多くの時間を割かなければならない。本稿は、国経中国語履修者がピンイン表記を習得する上で困難に感じている点を探求し、その原因を分析するものである。

## 2. 調査方法の紹介

### 2.1. 調査対象

本稿の調査対象は、国経1年生選択必修科目「中国語Ⅰ（文法）」（以下「中Ⅰ文」）履修者（2015年度入学者）である。調査対象は全員、選択必修の初習外国語として中国語を週2こま履修しており、筆者はそのうちの週1こまを担当している。

### 2.2. 調査実施方法

筆者は「中Ⅰ文」の毎回の授業で、授業に登場する全ての単語を一覧表にして配布する（資料2）。まず、学生（調査対象）は教師の後について単語一覧表を音読し、単語のピンイン表記とその読み方、意味を確認する。次に、学生は単語を連語（フレーズ）や文に組み立てる日文中訳練習を行う。作った連語や文は教師の後について音読し、再び単語のピンイン表記とその読み方を確認する。授業終了前5～10分間、その回の授業で学んだ単語や文法項目を用いた日文中訳テストを、持ち込み可で行う。次の回の授業の冒頭5分間、前回配布した単語一覧表（資料2）から出題する単語穴埋めテスト（資料3）を、持ち込み可で行う。

#### 【資料2】 単語一覧表

[注] 名＝名詞、動＝動詞

	簡体字	日本漢字	ピンイン	（品詞）	意味
1	学校		xuéxiào	（名）	学校
2	电话	電話	diànhuà	（名）	電話

ピンイン表記の誤答に関する一考察

- |   |      |          |                          |
|---|------|----------|--------------------------|
| 3 | 休息   | xiūxi    | (動) 休む；休憩する              |
| 4 | 词典 詞 | cídiǎn   | (名) 辞書；辞典【注】単語の意味を解説する辞典 |
| 5 | 房间 間 | fángjiān | (名) 郵便局                  |

【資料3】 単語穴埋めテスト（単語一覧表持ち込み可）

問. 以下の日本語の単語を中国語に改め、左側にピンイン(拼音)、右側に簡体字を使って記入しなさい。

	ピンイン	簡体字
学校(2)	_____	学校_____
電話(2)	_____	_____
休む；休憩する(2)	_____	_____

単語一覧表や作連語・作文の音読、単語穴埋めテストを通じて、履修者が単語のピンイン表記を身に付けたか否かを検証するため、2015年春学期の学習歴2カ月目、3カ月目、4カ月目、秋学期の学習歴7カ月目、9カ月目、10カ月目の計6回、単語穴埋めテスト（資料3）と全く同じ形式で出題した定期試験（資料4）を、持ち込み一切不可で実施した。

【資料4】 定期試験（持ち込み一切不可）

問3. 以下の日本語の単語を中国語に改め、左側にピンイン(拼音)、右側に簡体字を使って記入しなさい。

	ピンイン	簡体字
雑誌(2)	_____	_____
飛行機(2)	_____	_____
地下鉄(2)	_____	_____

表1は、各定期試験の解答時期（学習暦○カ月目）、受験者数、出題した単語を示したものである。

出題した単語はその構造的特徴から、日中同型、日中字形違い、日中近似型、日中異形の4種類に分けられる。「日中同型」とは、簡体字（第1章参照）の字形が日本漢字と全く同じもの（例：「学校」は簡体字でも“学校”と表記）、「日中字形違い」とは、簡体字の字形が日本漢字と異なるもの（例：「電話」は簡体字で“电话”と表記）、「日中近似型」とは、同じ意味を表す日中の単語の構造、および簡体字と日本漢字が部分的に異なるもの（例：「郵便局」は中国語で「郵局」といい、簡体字で“邮局”と表記）、「日中異形」とは、同じ意味を表す日中の単語で、用いる簡体字と日本漢字が全く異なるもの（例：「部屋」は中国語で「房間」といい、簡体字で“房间”と表記）を指す。

表1. 調査対象内訳

学習歴	受験者数	日中同型	日中字形違い	日中近似型	日中異形
2カ月目(春学期)	64人	学校	电话	邮局, 休息, 词典	
3カ月目(春学期)	58人		杂志	飞机	房间
4カ月目(春学期)	55人	教室, 身体	发音, 时间, 练习	地铁, 生日	公司
7カ月目(秋学期)	52人	学校, 教室	发音, 杂志, 练习	邮局, 飞机, 词典	公司
9カ月目(秋学期)	50人	身体	电话, 时间		
10カ月目(秋学期)	46人			地铁, 生日, 休息	房间

### 3. 調査結果とその分析

本章では、国経中国語履修者に対して行った、中国語の単語のピンイン表記を書く試験の結果を分析する。

#### 3.1. 単語のピンイン表記解答状況分析

本節では、単語のピンイン表記の解答状況を分析する。

表2は、定期試験で出題した中国語の単語16個を、単語の構造（第2章第2節参照）ごとに、春学期と秋学期の正答率、秋学期と春学期の正答率の差を示したものである。表2を見るに、日中同型と日中字形違いの正答率は秋学期に1割前後、日中近似型は秋学期に25%上昇しているが、日中異形は秋学期に3.125%低下している。この調査結果は、日中で簡体字と日本漢字が全く異なる日中異形は、日中同型、字形違い、近似型に比べ、正確なピンイン表記を把握するのが困難であるということを示している。

#### 3.2. 簡体字のピンイン表記解答状況分析

本節では、各簡体字のピンイン表記の解答状況を分析する。

表 2. 単語の構造ごとのピンイン表記正答率

単語の構造	出題した単語	春学期正答率	秋学期正答率	秋学期－春学期
日中同型（3単語）	学校, 教室, 身体	66.56%	75.58%	+9.02%
日中字形違い（5単語）	发音, 杂志, 电话, 时间, 练习	62.77%	74.78%	+12.01%
日中近似型（6単語）	邮局, 飞机, 地铁, 生日, 休息, 词典	50.58%	76.55%	+25.97%
日中異形（2単語）	房间, 公司	65.25%	62.125%	-3.125%

表 3. 各簡体字のピンイン表記正答率

簡体字	ピンイン表記	単語の構成	春学期		秋学期		秋学期－春学期
			学習歴	正答率	学習歴	正答率	
“学”	xué	日中同型	2 カ月	54.7%	7 カ月	92.3%	+37.6%
“校”	xiào	日中同型	2 カ月	48.4%	7 カ月	90.4%	+42%
“教”	jiào	日中同型	4 カ月	81.8%	7 カ月	73.1%	-8.7%
“室”	shì	日中同型	4 カ月	83.6%	7 カ月	57.7%	-25.9%
“身”	shēn	日中同型	4 カ月	61.8%	9 カ月	64%	+2.2%
“体”	tǐ	日中同型	4 カ月	69.1%	9 カ月	76%	+6.9%
“发”	fā	日中字形違い	4 カ月	83.6%	7 カ月	84.6%	+1.0%
“音”	yīn	日中字形違い	4 カ月	81.8%	7 カ月	88.5%	+6.7%
“杂”	zá	日中字形違い	3 カ月	60.3%	7 カ月	69.2%	+8.9%
“志”	zhì	日中字形違い	3 カ月	58.6%	7 カ月	71.2%	+12.6%
“电”	diàn	日中字形違い	2 カ月	57.8%	9 カ月	94%	+36.2%
“话”	huà	日中字形違い	2 カ月	54.7%	9 カ月	74%	+19.3%
“时”	shí	日中字形違い	4 カ月	56.4%	9 カ月	70%	+13.6%
“间”	jiān	日中字形違い	4 カ月	50.9%	9 カ月	54%	+3.1%
“练”	liàn	日中字形違い	4 カ月	61.8%	7 カ月	73.1%	+11.3%
“习”	xí	日中字形違い	4 カ月	61.8%	7 カ月	69.2%	+7.4%
“邮”	yóu	日中近似型	2 カ月	40.6%	7 カ月	69.2%	+28.6%
“局”	jú	日中近似型	2 カ月	39.1%	7 カ月	65.4%	+26.3%
“飞”	fēi	日中近似型	3 カ月	82.8%	7 カ月	90.4%	+7.6%
“机”	jī	日中近似型	3 カ月	75.9%	7 カ月	92.3%	+16.4%
“地”	dì	日中近似型	4 カ月	61.5%	10 カ月	84.8%	+23.3%
“铁”	tiě	日中近似型	4 カ月	57.7%	10 カ月	76.1%	+18.4%
“生”	shēng	日中近似型	4 カ月	47.3%	10 カ月	65.2%	+17.9%
“日”	rì	日中近似型	4 カ月	70.9%	10 カ月	73.9%	+3.0%
“休”	xiū	日中近似型	2 カ月	15.6%	10 カ月	73.9%	+58.3%
“息”	xi	日中近似型	2 カ月	28.1%	10 カ月	87%	+58.9%
“词”	cí	日中近似型	2 カ月	46.9%	7 カ月	71.2%	+24.3%
“典”	diǎn	日中近似型	2 カ月	40.6%	7 カ月	69.2%	+28.6%
“公”	gōng	日中異形	4 カ月	90.9%	7 カ月	88.5%	-2.4%
“司”	sī	日中異形	4 カ月	90.9%	7 カ月	90.4%	-0.5%
“房”	fáng	日中異形	3 カ月	34.5%	10 カ月	34.8%	+0.3%
“间”	jiān	日中異形	3 カ月	44.8%	10 カ月	34.8%	-10.0%

表3は、定期試験で出題した中国語の単語16個（全て2字で構成）32字の、ピンイン表記、単語の構造（第2章第2節参照）、解答時期、春学期と秋学期の正答率、秋学期と春学期の正答率の差を示したものである。表3の見方を説明する。“学”のピンイン表記は“xué”、単語の構造（第2章第2節参照）は「日中同型」、春学期（学習歴2カ月目）に行った定期試験での正答率は54.7%、秋学期（学習歴7カ月目）に行った定期試験での正答率は92.3%だったので、秋学期の正答率は春学期より37.6%上昇した、ということである。

表3を見るに、32字のうち、春学期より秋学期の正答率が上昇したものは27字（84.37%）あり、学習が進むにつれ、学習者は正確にピンインを書くことができるようになってきていると言える。一方、春学期より秋学期の正答率が低下したものは“教”“室”“公”“司”“(房)间”の5字あり、そのうち“教”“公”“司”“(房)间”の4字の正答率の低下は1～10%以内に収まっているものの、“室”だけは正答率が25%も低下している。この原因は第3章第4節で分析する。

### 3.3. 声調符号の位置解答状況分析

本節では、声調符号の位置の解答状況を分析する。

表4. 声調符号の位置誤答数

	ピンイン表記	ピンイン表記誤答	春学期誤答数	秋学期誤答数	秋学期－春学期
“休”	xiū	xīu	4	0	-4
“学”	xué	xúe	5	1	-4
“校”	xiào	xiao	1	0	-1
“话”	huà	hùà	1	1	±0
“飞”	fēi	feī	1	2	+1
“铁”	tié	tīe	1	2	+1

表4は、定期試験で出題した中国語の単語16個（全て2字で構成）32字のうち、声調符号の位置を間違えた字6字について、春学期と秋学期の誤答数、秋学期と春学期の誤答数の差を示したものである。表4の見方を説明する。“休”の正しいピンイン表記は“xiū”だが、“xīu”と書いた誤答が、春学期の定期試験で4個、秋学期の定期試験で0個だったので、秋学期の誤答は春学期より4個減少した、ということである。

声調符号「一／V\」を付ける位置には、以下のような規則がある（周有光1995.p36）。

- ① 母音“a”“o”“e”“i”“u”“ü”の上に付ける。
- ② “i”の上に付ける時は上の「・」を取る。
- ③ ひとつの音節の中に母音が2つ以上ある時は、“a”があれば“a”の上、“a”がなければ“o”か“e”

の上、“iu”は“i”の上、“ui”は“u”の上に付ける。

声調符号は母音の上に付けるのだが、母音が2つ以上あると、どこに付けるべきか、迷うことになる。定期試験で出題した32字のうち、2つ以上の母音を含む字は、“休xiū”“学xué”“校xiào”“话huà”“飞fēi”“铁tiě”“教jiào”“电diàn”“典diǎn”“间jiān”“练liàn”“邮yóu”の12字あるが、表4を見るに、声調符号を付ける位置を間違えたものは“休xiū”“学xué”“校xiào”“话huà”“飞fēi”“铁tiě”の6字であり、6字のうち4字は母音“i”の上に付けたものである。“休xiū”“学xué”“校xiào”は秋学期には誤答がゼロになったものの、“飞fēi”“铁tiě”は秋学期に誤答が1個増えている。この調査結果から、声調符号を付ける位置の規則に関わらず、学習者は“i”の上に付けがちな傾向が見られる。

### 3.4. 声調の解答状況分析

本節では、声調の解答状況を分析する。

表5は、定期試験で出題した中国語の単語16個（全て2字で構成）32字を、声調ごとに分け、誤答の種類、春学期と秋学期の誤答数、秋学期と春学期の誤答数の差を示したものである。表5-1~5の見方を説明する。“身”の正しい声調は第1声だが、第2声と書いた誤答が、春学期の定期試験で3個、秋学期の定期試験で6個だったので、秋学期の誤答は春学期より3個増加した、ということである。

表5-1~5を見るに、第1声を第2, 3, 轻声、第2声を轻声、第3声を轻声、第4声を第2, 3, 轻声、轻声を第2, 3, 4声に間違えた誤答は、春学期より秋学期の方が減少しているものの、第1声を第4声、第2声を第1, 3, 4声、第3声を第1, 4声、第4声を第1声に間違えた誤答は、

表5-1. 第一声(11字)誤答数

	ピンイン表記	1声→2声			1声→3声			1声→4声			1声→轻声		
		春	秋	秋-春	春	秋	秋-春	春	秋	秋-春	春	秋	秋-春
“身”	shēn	3	6	+3	3		-3	4	4	±0	4	2	-2
“发”	fā	4		-4									
“音”	yīn				1		-1	1	1	±0	2	1	-1
“(时)间”	(shí) jiān	4	1	-3	6	2	-4	9	10	+1	2	3	+1
“飞”	fēi								2	+2	1		-1
“机”	jī		1	+1	2		-2				2		-2
“生”	shēng	2	1	-1		1	+1	2	4	+2	1	1	±0
“休”	xiū		1	+1	2	2	±0	1	3	+2	5	3	-2
“公”	Gong				1		-1		1	+1	1		-1
“司”	sī							1	1	±0	1		-1
“(房)间”	(fāng) jiān	3		-3		1	+1	6	10	+4	2	1	-1
合計		16	10	-6	15	6	-9	24	36	+12	21	11	-10

表5-2. 第二声（8字）誤答数

	ピンイン表記	2声→1声			2声→3声			2声→4声			2声→轻声		
		春	秋	秋-春	春	秋	秋-春	春	秋	秋-春	春	秋	秋-春
“学”	xué				1	3	+2	9		-9			
“杂”	zá	4	4	±0	1		-1	6	9	+3	2		-2
“时”	shí	3		-3	3	1	-2	8	8	±0		3	+3
“习”	xí							4	6	+2	3		-3
“邮”	yóu		1	+1		5	+5	7	6	-1	1	1	±0
“局”	jú		2	+2				4	9	+5	1	1	±0
“词”	cí	1	4	+3	1	1	±0	5	5	±0	2		-2
“房”	fāng	3	3	±0	2		-2	6	10	+4	2	2	±0
合計		11	14	+3	8	10	+2	49	53	+4	11	7	-4

表5-3. 第三声（3字）誤答数

	ピンイン表記	3声→1声			3声→2声			3声→4声			3声→轻声		
		春	秋	秋-春	春	秋	秋-春	春	秋	秋-春	春	秋	秋-春
“体”	tǐ	1	4	+3	4	5	+1	3		-3	3		-3
“铁”	tiě	1	2	+1	2	1	-1	4	4	±0	2		-2
“典”	diǎn	4	2	-2	1	1	±0	4	8	+4	2		-2
合計		6	8	+2	7	7	±0	11	12	+1	7	0	-7

表5-4. 第四声（9字）誤答数

	ピンイン表記	4声→1声			4声→2声			4声→3声			4声→轻声		
		春	秋	秋-春	春	秋	秋-春	春	秋	秋-春	春	秋	秋-春
“校”	xiào				8	3	-5		3	+3	4	2	-2
“教”	jiào	4	3	-1	2	5	+3	1		-1			
“室”	shì	2	12	+10	3	4	+1				1	1	±0
“志”	zhì	4	5	+1	4	2	-2	5	4	-1			
“电”	diàn	2		-2	8		-8	2	1	-1	5		-5
“话”	huà	1	1	±0	10	6	-4	4	1	-3		1	+1
“练”	liàn	1		-1	4	4	±0	3		-3		1	+1
“地”	dì	1		-1	4	2	-2	4	1	-3	1	2	+1
“日”	rì		1	+1	2	5	+3	2	2	±0	1		-1
合計		15	22	+7	45	31	-14	21	12	-9	12	7	-5

表5-5. 轻声（1字）誤答数

	ピンイン表記	轻声→1声			轻声→2声			轻声→3声			轻声→4声		
		春	秋	秋-春	春	秋	秋-春	春	秋	秋-春	春	秋	秋-春
“息”	xī	2	2	±0	1		-1	1		-1	3	2	-1



春学期より秋学期の方が増加している。中でも、第1声“(时)间jiān”“(房)间jiān”を第4声“jiàn”、第2声“房fáng”を第4声“fàng”、第4声“室shì”を第1声“shì”に間違えた誤答は、秋学期になっても10個もあり、約2割の学生が間違えているということになる。第3章第2節の分析で、学習が進むにつれ、学習者は各簡体字のピンインを正確に書くことができるようになってきているという結果を得たが、表5-1～5の調査結果は、学習者が“间jiān”“房fáng”“室shì”といった一部の字の声調を正しく把握できていないことを表している。この原因はどこにあるのだろうか？

钱玉莲2004は、南京師範大学で中国語を学ぶ留学生50人に対し、教科書で学んだ単語（一音節、二音節、三音節）を、ピンインや声調符号を付けず、簡体字だけで提示し、音読させる試験を行ったところ、初級レベルよりも中上級レベル、母国語に声調が有る国よりも無い国出身の留学生に、声調がはっきりしない、あるいは声調を失った、外国語訛りの発音が多く聞かれた、という結果を得ている。钱玉莲2004は、留学生の声調が曖昧になったり、脱落する理由について、中国語の声調は音節全体にかかっているものの、子音と母音からは独立した要素であるためではないか、と分析している。日本人学習者が学習歴を重ねても声調を正しく把握できない字があるのは、日本語に声調が無いことに加え、学習者が声調、子音、母音をそれぞれ別々に記憶しているからではなかろうか。今回の分析はまだ初歩的なものであるので、第1声を第4声、第2声を第4声、第4声を第1声に間違えた誤答が特に多い原因と合わせて、今後も研究を続けていく。

### 3.5. 子音の解答状況分析

本節では、子音の解答状況を分析する。

表6は、定期試験で出題した中国語の単語16個（全て2字で構成）32字を、子音ごとに分け、誤答の種類、春学期と秋学期の誤答数、秋学期と春学期の誤答数の差を示したものである。表6-1～2の見方を説明する。“发”のピンイン表記は“fā”なので、子音は“f”と書くべきであるが、“a”のように子音無し（ゼロ）と書いた誤答が、春学期の定期試験で2個、秋学期の定期試験で2個だったので、秋学期の誤答は春学期と同じ（プラスマイナスゼロ）、ということである。

表6-1～2を見るに、子音のうち唇歯音“f”は5種類、舌尖音無気音“d”は6種類、舌尖音有気音“t”は3種類、舌根音“h”は6種類、舌面音無気音“j”は9種類、巻舌音無気音“zh”は4種類、巻舌音“sh”は7種類、舌歯音無気音“z”は2種類、舌歯音有気音“c”は3種類、舌歯音“s”は3種類の誤答があるが、どの種の誤答も誤答数は1～3個に留まっており、舌面音“j”以外は春学期より秋学期の誤答が減少している。この結果から、学習者は学習が進むにつれ、子音のピンイン表記は比較的正確に習得していると言える。

表6-1. 子音（唇歯音、舌尖音、舌根音）誤答数

唇歯音	春	秋	秋-春	舌尖音	春	秋	秋-春	舌根音	春	秋	秋-春
“f”→“ゼロ”	2	2	±0	“d”→“ゼロ”	2		-2	“h”→“f”	1		-1
“f”→“p”		1	+1	“d”→“p”	1		-1	“h”→“d”	1		-1
“f”→“d”	1	1	±0	“d”→“t”	1		-1	“h”→“t”	1		-1
“f”→“t”	2		-2	“d”→“h”	2		-2	“h”→“n”	1		-1
“f”→“h”	1	1	±0	“d”→“j”	2		-2	“h”→“x”	1		-1
				“d”→“x”	1		-1	“h”→“sh”		1	+1
				“t”→“p”	1		-1				
				“t”→“x”	1		-1				
				“t”→“sh”	1		-1				
合計	6	5	-1	合計	12	0	-12	合計	5	1	-4

表6-2. 子音（舌面音、巻舌音、舌歯音）誤答数

舌面音	春	秋	秋-春	巻舌音	春	秋	秋-春	舌歯音	春	秋	秋-春
“j”→“ゼロ”		1	+1	“zh”→“j”		1	+1	“z”→“p”	1		-1
“j”→“b”		1	+1	“zh”→“ch”		1	+1	“z”→“zh”	1	1	±0
“j”→“m”	1		-1	“zh”→“sh”	1		-1	“c”→“m”	1		-1
“j”→“d”		2	+2	“zh”→“z”	2	1	-1	“c”→“d”	1		-1
“j”→“t”		1	+1	“sh”→“b”		1	+1	“c”→“ch”		1	+1
“j”→“g”	1		-1	“sh”→“t”	2		-2	“s”→“g”	1		-1
“j”→“h”		1	+1	“sh”→“n”		1	+1	“s”→“x”	1		-1
“j”→“q”	2	1	-1	“sh”→“g”	1		-1	“s”→“sh”	1	2	+1
“j”→“z”	1		-1	“sh”→“j”	2	1	-1				
				“sh”→“x”	2		-2				
				“sh”→“s”	3	2	-1				
合計	5	7	+2	合計	13	8	-5		7	4	-3

### 3.6. 母音の解答状況分析

本節では、母音の解答状況を分析する。

表7は、定期試験で出題した中国語の単語16個（全て2字で構成）32字を、母音ごとに分け、誤答の種類、春学期と秋学期の誤答数、秋学期と春学期の誤答数の差を示したものである。表7-1～8の見方を説明する。“发”のピンイン表記は“fa”なので、母音は“a”と書くべきであるが、“e”と書いた誤答が、春学期の定期試験で0個、秋学期の定期試験で1個だったため、秋学期の誤答は春学期より1個増加した、ということである。

表7-1. 母音（単母音“a”）誤答数

	春学期誤答数	秋学期誤答数	秋学期－春学期
“a”→“o”	1		-1
“a”→“e”		1	+1
“a”→“i”	1	1	±0
“a”→“u”	2		-2
“a”→“ao”	1	1	±0
“a”→“uo”	1		-1
“a”→“an”	1	1	±0
“a”→“ong”	1		-1
合計	8	4	-4

表7-2. 母音（単母音“ü”、二重母音“üe”）誤答数

	春誤答数	秋誤答数	秋－春		春誤答数	秋誤答数	秋－春
“ü”→“i”	4	2	-2	“üe”→“i”	1		-1
“ü”→“u”	1		-1	“üe”→“ie”	1		-1
“ü”→“ün”	1		-1	“üe”→“iao”	1		-1
				“üe”→“in”	1		-1
合計	6	2	-4	合計	4		-4

表7-1, 2を見るに、単母音“a”は8種類、単母音“ü”は3種類、二重母音“üe”は4種類の誤答があり、どの種の誤答も誤答数は1～4個に留まっており、学習者は学習が進むにつれ、単母音“a”“ü”、二重母音“üe”のピンイン表記は比較的正確に習得していることがわかる。

表7-2.“ü”と書くべきところを“i”、“üe”と書くべきところを“ie”などと書いた誤答が大幅に減少した原因を考えたい。単母音“ü”は単母音“i”を発音する時の舌の位置のまま、唇を横笛・フルートを吹くようにすぼめた形にして、「ユ」のように発音する。そして、子音“j”が単母音“ü”と決して結びつかないので、子音“j”の後ろに単母音“ü”が付く時には、上の2つの点を省略して書かない、という規則があるため、子音“j”+“ü”は“ju”と書く（周有光1995.p32、周祖谟1994.p26）。温宝莹2008.は、南開大学で中国語を学ぶ日本語母語話者30人と、中国語母語話者10人に対し、“阿ā”“哥gē”“衣yī”“屋wū”“魚yú”の5字を音読させ、単母音の発音を比較対照したところ、日本語母語話者の単母音“ü”（“魚yú”）の発音は学習歴が長くなるにつれて明らかに改善しており、中級レベルの日本語母語話者では中国語母語話者とほぼ一致していた、という結果を得ている。単母音“ü”はその表記に複雑な規則があり、また“ü”の発音が“i”と似た音に聞こえることから、春学期は誤答数が多かったが、学習歴が長くなると発音が改善するので、秋学期には表記も正確になったと考えられる。

表7-3. 母音（単母音“i”）誤答数

	春学期誤答数	秋学期誤答数	秋学期－春学期
“i”→“a”		1	+1
“i”→“e”	1	1	±0
“i”→“ü”	1		-1
“i”→“üe”	7	2	-5
“i”→“(z)i”	1	1	±0
“i”→“iou”	1		-1
“i”→“an”		1	+1
“i”→“ang”		1	+1
“i”→“in”	1	1	±0
“i”→“ing”		2	+2
“i”→“ian”	1		-1
合計	13	10	-3

表7-4. 母音（巻舌音“zh/sh/r”後ろの“i”）誤答数

	春学期誤答数	秋学期誤答数	秋学期－春学期
“(zh/sh/r)i”→“a”		1	+1
“(zh/sh/r)i”→“i”	1	1	±0
“(zh/sh/r)i”→“u”		2	+2
“(zh)i”→“(z)i”	4	1	-3
“(zh/sh/r)i”→“iao”	1		-1
“(zh/sh/r)i”→“uei”	3		-3
“(zh/sh/r)i”→“an”	1	1	±0
“(zh/sh/r)i”→“ang”		2	+2
“(zh/sh/r)i”→“ian”	3		-3
“(zh/sh/r)i”→“in”	1	1	±0
合計	14	9	-5

表7-5. 母音（舌歯音“c/s”後ろの“i”）誤答数

	春学期誤答数	秋学期誤答数	秋学期－春学期
“(c/s)i”→“(ch/x)i”	2		-2
“(c/s)i”→“ai”	1		-1
“(c/s)i”→“uo”	1		-1
“(c/s)i”→“uen”	1		-1
合計	5	0	-5

表7-3, 4, 5は“i”と書くピンイン表記の誤答を示している。“i”と書くピンイン表記は、原則として口を思い切り横に引いて「イ」と読むのだが、「イ」と読まない例外的な表記が7つある。それは、巻舌音“zh”“ch”“sh”“r”の後ろにある“i”と、舌歯音“z”“c”“s”の後ろにある“i”である。巻舌音の後ろの“i”は唇がやや丸くなった状態であいまいに「イ」と読み、舌歯音の後ろの“i”は口を思い

切り横に引いて「ウ」と読む（周有光1995.p30、周祖谟1994.p47）。

表7-3, 4, 5を見るに、舌歯音“c”“s”の後ろの“i”だけは秋学期に誤答がゼロになっているが、単母音“i”と巻舌音の後ろの“i”は春学期より秋学期の誤答が減少するものの、依然として合計9~10個の誤答がある。この調査結果は、学習者が“i”という表記を習得困難に感じていることを示している。

温宝莹2008.は、南開大学で中国語を学ぶ日本語母語話者30人と、中国語母語話者10人に対し、“知 zhi”“资 zi”の2字を音読させ、巻舌音“zh”と舌歯音“z”の後ろの母音“i”の発音を比較対照したところ、学習歴2年以内の初中級レベルの日本語母語話者と中国語母語話者の発音は大きくかけ離れており、学習歴3年以上の上級レベルの日本語母語話者でやっと中国語母語話者に近い発音ができている、という結果を得ている。同じピンインでも読み方が複数あるものは、発音も表記も習得するのが困難であると言えよう。

表7-6. 母音（三重母音“iao”“iou”）誤答数

	春	秋	秋-春		春	秋	秋-春
“iao”→“i”	4		-4	“iou(-iu)”→“i”	1		-1
“iao”→“u”	1		-1	“iou(-iu)”→“ü”	1	4	+3
“iao”→“ao”	2		-2	“iou(-iu)”→“üe”	4	3	-1
“iao”→“ia”	1	2	+1	“iou(-iu)”→“ie”	2		-2
“iao”→“io”	1		-1	“iou(-iu)”→“ing”	1	1	±0
“iao”→“in”	3		-3	“iou(-iu)”→“ian”	1		-1
“iao”→“ian”	2	2	±0	“iou(-iu)”→“iang”	1		-1
				“iou(-iu)”→“iong”		1	+1
合計	14	4	-10		11	9	-2

表7-6を見るに、同じ三重母音でも、“iao”の方は春学期より秋学期の誤答数が10個も減少したのに対し、“iou”の方は2個しか減少していない。この調査結果から、“iao”よりも“iou”の方がその表記を習得するのが困難であることが分かる。

三重母音“iou”は前に子音が付かず、これだけで音節を構成する時には“you”と書き、前に子音が付く時には間にある“o”を書かず、子音+“iu”と書くという規則がある（周有光1995.p33、周祖谟1994.p32, 51）。邓丹2008.は、南開大学で中国語を学ぶ日本語母語話者6人と、中国語母語話者6人に対し、複合母音を音読させ、その発音を比較対照したところ、“iao”の発音は両者でほとんど違いが無かったのに対し、日本語母語話者の“iou”の発音は中国語母語話者に比べて、真ん中の“o”の母音がはっきりせず、“i”や“u”の音ばかり強く聞こえるという特徴があったという。ピンインの書き方規則が複雑であると、その発音やピンイン表記を正確に把握するのに障害になっていると言えよう。

表7-7, 8を見るに、誤答が際立って多いのは後鼻母音“ang”“eng”である。春学期には後鼻母音“ang”を前鼻母音“an”と書いた誤答が6個、後鼻母音“eng”を前鼻母音“en”と書いた誤答が10個ある。

表 7-7. 母音（前鼻母音“en”）誤答数

	春学期誤答数	秋学期誤答数	秋学期-春学期
“en”→“e”	1		-1
“en”→“(sh)i”	1	2	+1
“en”→“iao”	1		-1
“en”→“an”	1		-1
“en”→“ang”		1	+1
“en”→“eng”	1		-1
“en”→“in”		2	+2
“en”→“ing”	1		-1
“en”→“ian”	1		-1
“en”→“ien”		1	+1
合計	7	6	-1

表 7-8. 母音（後鼻母音“ang”“eng”“ong”）誤答数

	春	秋	秋-春		春	秋	秋-春
“ang”→“i”	1		-1	“eng”→“a”		1	+1
“ang”→“ou”		1	+1	“eng”→“e”		1	+1
“ang”→“an”	6	1	-5	“eng”→“i”	2	1	-1
“ang”→“eng”		1	+1	“eng”→“en”	10	2	-8
“ang”→“ong”		1	+1	“eng”→“ang”	1	2	+1
合計	7	4	-3	“eng”→“in”	1		-1
				“eng”→“on”	1		-1
“ong”→“on”	5	3		合計	15	7	-8

しかし、秋学期になると、誤答数はそれぞれ1個、2個と大幅に減少している。誤答が大幅に減少した理由はどこにあるのだろうか。

吳宗濟1989.(p124)の音声学実験によると、「鼻母音の末尾は必ずしも中国語共通語鼻母音に絶対必要な特徴ではなく、状況によっては往々にして脱落して発音されることもある。特に、1音節が短く発音された時と、声調が第4声の時は、鼻母音の末尾は脱落しやすい。」という結果が出ている。吳宗濟の研究成果を用いて解釈すると、日本人が後鼻母音を前鼻母音に間違える理由は、中国語鼻母音の末尾そのものが脱落して発音されていないことも多いことにあると言える。但し、簡体字を日本漢字の音読みで読むと、前鼻母音は終わりが「ン」、後鼻母音は終わりが「イ」または「ウ」になるという規則があるので、学習が進むにつれ、その規則を駆使して区別することができるようになり、誤答が減少したと考えられる。

#### 4. 分析結果の総括

以上、国経「中 I 文」履修者に対して行った、簡体字のピンイン表記を書く試験の解答を分析したが、国経の中国語履修者のピンイン表記の習得には以下のような特徴が見られる。

- (1) 声調符号は、付ける位置の規則に関わらず、母音「i」の上につける傾向が見られる。
- (2) 日本語は声調が無い言語であり、日本人学習者は声調、子音、母音をそれぞれ別々に記憶しているため、一部の字の声調は、学習歴が長くなっても正確に把握できていない。
- (3) 子音は、どのような発音方法、発音部位のものでも、学習が進むにつれ、その表記の誤答は減少する。
- (4) 単母音では、ひとつの表記で複数の読み方がある“i”、三重母音では、ピンイン表記に省略の規則がある“iou”で、正確な表記を把握するのに困難がある。
- (5) 鼻母音は、学習歴が浅い時はその表記に誤答が多いが、学習歴を重ねると簡体字と日本漢字の音読みの対応関係を使うことに慣れて、誤答が減少する。

#### 【参考文献】

- 邓丹2013. 〈日本学习者汉语普通话复合元音的实验研究〉, 温宝莹、邓丹、石锋编著《汉语语音习得研究》p172~184, 南开大学出版社
- 钱玉莲2004. 〈留学生汉语声调习得之实验研究〉, 《第七届国际汉语教学讨论会论文集》p494~499, 北京大学出版社
- 温宝莹2008. 〈日本学习者汉语音习得的实验研究〉, 温宝莹、邓丹、石锋编著《汉语语音习得研究》p146~157, 南开大学出版社
- 吴宗济、林茂灿主编1989. 《实验语音学概要 增订版》, 北京大学出版社
- 周有光1995. 《汉语拼音方案基本知识》, 语文出版社
- 周祖谟1994. 《汉语拼音字母学习法》(修订本), 语文出版社
- 竹中佐英子2017. 「経済学部中国語教育に関する一考察(六) —中国語リスニングを中心に—」, 『経済論集』第42巻第2号, p219~232